



- ・新年のご挨拶（北海道森林管理局長 関口 高士）
- ・地域との連携による保護・整備活動について（宗谷森林管理署）
- ・山地災害に備えた取組の推進について（治山課）
- ・こんにちは森林官です！（今金森林事務所）
- ・センター通信（知床森林生態系保全センター）

林野庁



北海道森林管理局

新年のご挨拶

国有林があつてよかったと思っただけのように



北海道森林管理局長 関口 高士

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、健やかに新春をお迎えになられたことと、お慶び申し上げます。

また、日頃より、国有林野の管理経営について、ご理解、ご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、北海道森林管理局が管理経営する国有林は、森林の整備や木材の生産が行われるのはもちろんのこと、レクリエーション等様々な利用がなされているほか、水源の涵養や山地災害の防止等、いわゆる森林の公益的機能によって、地域の生活にも大きな影響を与えています。このため、国有林に求める姿というものは、その人の立場によって違うものと思われま

す。他方、気候の変動が顕著になっており、現在、北海道内に生育している樹木が今後の気候に適合していけるかも定かではありません。加えて、森林に住む生き物も、それぞれに好む生息環境があり、生物多様性の観点から、それぞれに適した環境を整備するとともに、特定の生き物のみが生息域を拡大するといったことも避ける必要があります。

このようなことから、我々は、今、求められていることに加え、50年後、100年後の姿を想定した森林づくりを行っていかなければなりません。

国有林としては、そのための大きな方向性として「多様な森林づくり」を推進しているところです。これは、地域の要望や地球環境問題等も踏まえたそれぞれに求められる姿に対応するのに加え、予測が難しい将来に向けたリスク管理でもあります。

先人たちから継承された森林に敬意を表しつつ、当面は、充実した人工林資源は活かし再生産

（再造林）に取り組む、経済的に経営が難しい人工林については針広混交林化を目指す、天然林については資源の回復を図りながら、生物多様性の保全や鳥獣害対策等に必要な場合は手入れを行う、などが基本的な取組になると考えています。

また、未来に向けた森林づくりには、林業の活性化が不可欠です。機械化等により、素材生産に関する生産性は向上しており、今後はこれらに加え、造林・育林作業の省力化・効率化が重要になります。北海道では、全国に先駆けた取組が可能と考えており、国有林において率先して取り組み、その情報を発信していきたいと考えています。

加えて、災害が激甚化する中で、地域の方々の安全・安心な暮らしの確保は我々にとっても大きな課題です。森林整備による山地災害防止等の公益的機能の確保はもちろんですが、治山事業の推進、林道等の路網の整備、病虫害対策等にも積極的に対応するとともに、ICTの活用など、新たな取組により、これらの課題についてもより効果的かつ効率的に実施していく考えです。

他方、地域あつての国有林であることも自覚しているところです。森林のレクリエーション利用やアイヌ文化の継承等、地域に貢献できるよう取り組むとともに、北海道の皆様の声に耳を傾け、皆様に国有林があつてよかったと思っただけ

のよう、局署一丸となって努力してまいり所存です。引き続きのご支援、ご協力をいただければ幸いです。

本年もよろしくお願いいたします。

地域課題の解決に向けた取組

地域との連携による保護・整備活動について

利尻山

宗谷森林管理署

【はじめに】

宗谷森林管理署は、北海道の最北部に位置し、宗谷総合振興局管内の離島を含む1市8町1村を管轄しています。宗谷流域は約7割が森林であり、そのうち約4割に当たる約17万haを管理・経営しています。東部はオホーツク海、西部は利尻島・礼文島がある日本海に面し、高緯度地方ならではの特色ある自然環境を形成しています。昨年、指定50周年を迎えた利尻礼文サロベツ国立公園や北オホーツク道立自然公園等が所在しています。

利尻礼文サロベツ国立公園が所在する日本最北の離島である利尻・礼文両島については、①利尻島：島全体約18,100haのうち約7割(約12,600ha)、②礼文島：島全体約8,100haのうち約8割(約6,500ha)を管轄しています。

【地域の現状と課題】

高緯度地であることから、利尻・礼文両島では多様な高山植物や希少種を容易に観察でき、利尻山などの登山を目的に国内外から年間20万人以上の観光客が訪れています。

しかし近年、インバウンド(訪日外国人旅行者)を含む観光客が増加し、登山道以外への立ち入りが後を絶たず植生の損傷が深刻化しています。

【取組状況】

利尻島は、日本百名山である利尻山があり、年間1万人以上が登山に訪れます。

当署は、利尻町・利尻富士町・環境省・関係団体と共に「利尻山登山道等維持管理連絡協議会」に参画しています。協議会では、登山者のマナー指導や普及啓発活動をはじめ、標識類の整備など登山道の整備・維持管理を行うとともに、地域と連携しながら利尻山の貴重な自然・景観の保全管理に取り組んでいます。



【登山道整備】



礼文島では、礼文島の固有種であり準絶滅危惧種に指定されているレブンアツモリソウの保護増殖に向け、礼文町や環境省・関係団体と共に「レブンアツモリソウ保護増殖検討委員会」に参画し、平成28年から10カ年計画の保護増殖ロードマップを策定するなど、保護増殖に努めています。

開花時期には生息調査や巡視により、生育地の状況を把握し、観光客に対して入山時のマナー啓発も行うなど、生育環境の保全に取り組んでいます。

なお、今年更新された環境省第5次レッドリストでは、レブンアツモリソウは絶滅危惧IB類から準絶滅危惧種へ変更されました。



【レブンアツモリソウ】

【今後に向けて】

今後も利尻・礼文両島において、貴重な自然環境・景観の保持や希少種などの保護に向け、地元自治体や関係団体と連携・協力し、①希少種の生育環境改善、②観光客へのマナー啓発の継続、③地域と一体となった保全活動の推進などの取組を実施していきます。

山地災害に備えた取組の推進について

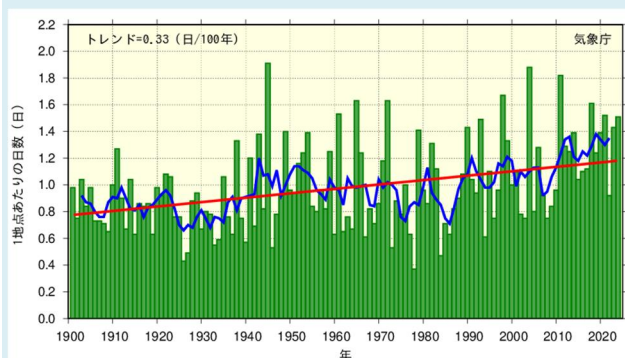
計画保全部 治山課

北海道森林管理局は、山地災害が発生した場合、迅速で正確な被害把握をできる職員の技術の研鑽に取り組んでいます。

【近年の気候変動と山地災害】

近年、全国では地震や台風などの自然災害が多発しています。特に気候変動の影響から、短い時間に強い雨が降る「集中豪雨」が増えており、山地災害のリスクも高まっています。

【全国51地点平均】日降水量100mm以上の年間日数

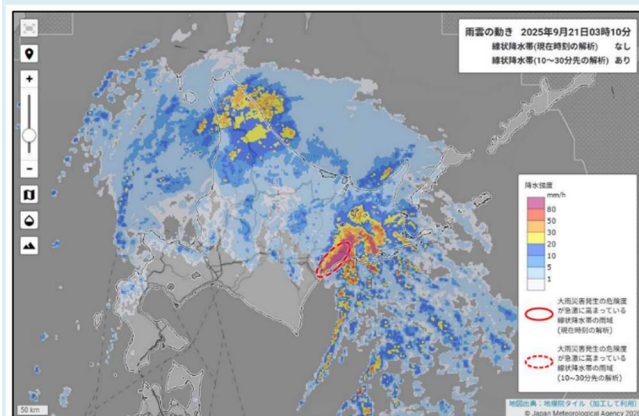


棒グラフ(緑):各年の年間日数(全国51の観測地点による各年の年間日数の合計を有効地点数の合計で割って1地点あたりの年間日数に換算した値)、折れ線(青):5年移動平均値、直線(赤):長期変化傾向を示す。気象庁HPより引用

北海道においても昨年8月から9月にかけて南西部を中心に大雨が降り続き、9月21日には道内で初めて「線状降水帯」が発生し、十勝・釧路地方では記録的な大雨となりました。

こうした状況を受け、山地災害も以前に比べて規模が大きく、かつ同時に多く発生する傾向が見られます。令和元年から令和6年までの全国の山地災害の平均は、年間約1,400箇所にとぼっています。一方、被害を受けた自治体では人手が足りないため、林野庁では現地調査などへ人的な支援を行い、早期復旧に努めています。

9月21日03時10分の雨雲の動き

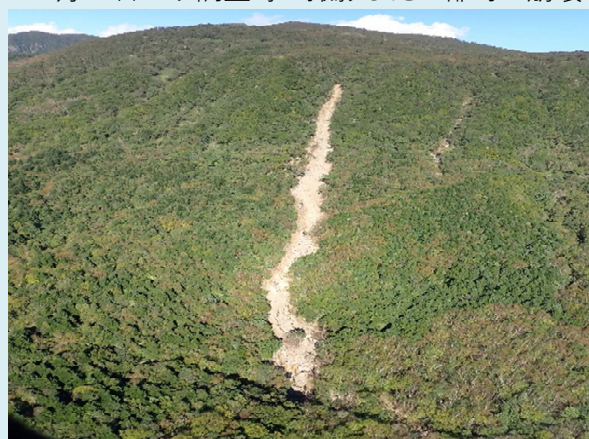


気象庁報道発表資料より引用

【ICT機器を用いた山地災害調査】

大規模な山地災害が発生した際には、まずヘリコプターで上空から広範囲の被害状況を確認します。その後、地上では「山地災害調査アプリ」やUAV(ドローン)を使って詳細な調査を行います。

9月30日ヘリ調査時に撮影した乙部町の崩壊



山地災害調査アプリは、通信可能なエリア内であれば即座にデータ(撮影した写真の位置情報や撮影方向)を送信し、通信不能エリアでも自動送信され、関係者間で共有できるよう林野庁が開発したものです。従来野帳とデジタルカメラ等で行っていた調査を一つのアプリで完結することがで

きます。また、大規模災害時には、多数の被災箇所について災害復旧の優先順位を検討する際にも役立ちます。

山地災害調査アプリ操作画面

× 研修・練習用アプリ

調査対象局名 (フリー.... 北海道森林管理局)

① ヘリ調査等

② 山地災害調査カルテ

③ 現地調査等

縦横断測量変化点

周囲測量変化点

写真撮影

踏査ルートの取得

【研修・練習用】【令和4年度更新版】山地災害調査カルテ

調査日	2025年8月26日
調査箇所名	
要因区分	
災害発生年月日	2025年8月19日
調査者名	槽山
調査対象局名	北海道森林管理局
森林管理者名	槽山森林管理署
災害名称等	
被害報告への記載の要否	要
被災形態	渓流荒廃
施設等被害	なし
施設の種類の	
人的被害	なし
死者 (人)	

【今年度実施した取組】

北海道森林管理局では、災害に備えるため、今年度次のような取組を実施しました。

①山地災害調査訓練

夏の集中豪雨に備え、山地災害調査アプリを使った訓練を6月末までに、全署で行いました。

②専門訓練

10月には函館管内の3つの署の治山担当者を対象に、現地調査から災害速報、災害申請書類の作成までの流れを一連で行う訓練を行いました。

今後も平常時から訓練を続け、万が一の大規模災害が起きた際には、国有林だけではなく、必要に応じて民有林への支援も行えるよう技術の習熟に努めて参ります。

函館管内での専門訓練状況（現地調査）



山地災害アプリ情報共有画面

【研修・練習用】山地災害調査アプリ

写真一覧

ヘリ調査等

山地災害調査カルテ

治山施設点検カルテ

データ編集

データ編集 (管理名用)

データのエクスポート

↑ 撮影日時順

研修・練習 (2025/10/21 13:54:49)

北海道森林管理局

研修・練習 (2025/10/21 13:54:37)

北海道森林管理局

研修・練習 (2025/10/21 13:54:21)

北海道森林管理局

研修・練習 (2025/10/21 13:54:03)

北海道森林管理局

研修・練習 (2025/10/21 13:53:50)

北海道森林管理局

研修・練習 (2025/10/21 13:53:10)

北海道森林管理局

研修・練習 (2025/10/21 13:51:36)

北海道森林管理局

研修・練習 (2025/10/21 13:51:27)

北海道森林管理局

北海道森林管理局撮影: 2025/10/21 13:55:02

gyoiumi150によって2025/10/21 14:57に最後に編集されました。

画像を右クリックして保存することができます

北海道森林管理局

こんにちは 森林官です！



渡島森林管理署 今金森林事務所
首席森林官 山崎 浩

【今金森林事務所の概要】

今金森林事務所は、平成 13 年に事務所を移転し、白石森林事務所との合同森林事務所として運営しています。管轄する国有林面積は、今金担当区と美利河担当区を合わせた約 21,240ha、白石担当区の約 5,410ha、3 担当区の合計は約 26,650ha となります。この広大な国有林を係員と首席森林官の 2 名体制で管理しています。



オオシュブンナイの滝（今金町）

【地域の紹介】

今金森林事務所が所在する今金町は、道南の渡島半島北部に位置し、南はユーラップ山系を挟んで八雲町、北は狩場山系を介して島牧村、東は低い山地を経て長万部町、西はせたな町と接しており、道南地域では珍しく海岸線がなく、周辺を山並みに囲まれた農村地帯です。

今金町の中心部には、全国最多となる 24 回の選出を誇る「水質が最も良好な河川」後志利別川が流れています。この川による肥沃な土壌と、周囲を山並みに囲まれた内陸性気候を活かし、今金町は道南随一の「農業のまち」として発展し、品質の高い農産物の産地として知られています。

特に有名なのは男爵いもで、「今金男爵」の名で全国にブランド化され、その味と品質は日本一との評判です。入手困難なことから「幻のいも」とも呼ばれています。

【森林事務所の業務】

主な業務は、林野巡視をはじめ、森林現状把握のための地林況調査、国有林と民有林の境界管理、豪雨や融雪による林道の被災状況確認などの林道点検、造林・製品生産・立木販売などの各種請負事業の監督業務など、多岐にわたる現場業務が中心です。

管轄する国有林には「レクリエーションの森」として、美利河・二股自然休養林及び美利河スキー場野外スポーツ地域があります。

特に美利河スキー場は、山頂から羊蹄山を遠望でき、パウダースノーを踏みしめながら滑り降りる爽快感が格別なスキー場として、多くの人に親しまれています。



美利河スキー場野外スポーツ地域（今金町）

【最後に】

当地域の冬は非常に厳しいため、現場での安全活動や日々の体調管理に注意しながら業務に取り組み、春を迎えたいと思います。



【知床世界自然遺産登録 20 周年記念シンポジウム】

知床世界自然遺産登録 20 周年を迎えるにあたり、昨年 8 月 31 日に斜里町「ゆめホール知床」において、「知床の海と未来～豊かな海の生態系と地球温暖化～」をテーマにシンポジウムが開催されました。

当日は、福島県「アクアマリンふくしま」の学芸員である松崎浩二氏による「新種の宝庫！知床半島。深海までも世界遺産？？」をテーマとした基調講演と、知床森林生態系保全センターの生態系管理指導官による「知床世界自然遺産地域における北海道森林管理局の取組について」をテーマとした講演が行われました。



生態系管理指導官の講演では、知床森林生態系保護地域の説明や、自然遺産地域と河川環境の保



全、河川工作物の効果検証に関する、サケ類の遡上や降下調査、夏季の水溫上昇によるオショロコマの減少傾向などの事例が紹介されました。



その後、知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループ座長であり、北海道大学大学院准教授の山村織生氏が進行役を務め、パネルディスカッションが行われました。パネリストとして、前述の松崎浩二氏のほか、屋久島町長、知床ダイビング企画代表、羅臼昆布・ウニ漁師、斜里高等学校 3 年生の 6 名が登壇し、「知床の未来から考える、私たちの未来とアクション」をテーマに、約 1 時間半にわたり、知床の未来について熱心な意見交換が行われました。

また、シンポジウムには主催者として林野庁長官も出席し、一般の方を含め約 160 名が参加しました。

一般参加者からも貴重な意見をいただき、有意義な 20 周年記念シンポジウムとなりました。



各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

相田木材(株)、(株)ノムラ西神楽ファクトリー、北海道産銘木市でOJT



【上川南部森林管理署】

12月17日～18日の2日間、相田木材(株)の製材工場、(株)ノムラ西神楽ファクトリーのパネル・プレカット工場、旭川林業会館で開催された銘木市を見学するOJTを実施しました。OJTには当署職員5名(若手職員を含む)が参加しました。2箇所の工場見学を通じて、国有林材がどのように加工・活用されているのか理解するとともに、銘木市では、どのような材に高値が付くか、市売りでの欠点の見方など、多くのことを学びました。



十勝西部森林管理署にもサンタさんが！？



【十勝西部森林管理署】

当署では、今年初めてクリスマスツリーの設置に挑戦しました。当署管内の広尾町には「広尾サントランド」があり、ノルウェー国外で初めてサントランドとして認められた町です。今回は、そんなサンタさんにゆかりのある広尾町から2本の木を用意しました。職員が「ツリーに命を吹き込む華やかな彩り」を目指し、昼休みの時間を利用して飾り付けを行いました。来庁者の皆さまに季節の彩りを感じていただけたことと思います。



上士幌小学校でSDGs出前授業を実施



【十勝西部森林管理署東大雪支署】

12月11日、上士幌町立上士幌小学校において、5年生42名の児童を対象に出前授業を実施しました。この出前授業は、上士幌町が「SDGs未来都市」に選定されていることを背景に、同校の5年生がSDGsの17のゴールを一つずつ学習する取組の一環として行われたものです。当支署もこの取組に協力しました。授業では、SDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」に関連し、森林の大切さについて説明しました。



「木育ひろばinチ・カ・ホ2025」を開催



【技術普及課】

12月13日～14日の2日間、札幌駅前通地下歩行空間北3条交差点広場において、北海道、公益社団法人北海道森と緑の会、北海道森林管理局主催による「木育ひろばinチ・カ・ホ2025」を開催しました。北海道森林管理局は13日に出席し、「まつぼっくりツリー」の製作体験ブースを設置しました。木のコースターの上にまつぼっくりをのせ、ビーズやぼんてん(飾り玉)、クルミやドングリ等を使って装飾を楽しんでいただきました。



広報 「北の森林 国有林」 1月号

発行 林野庁北海道森林管理局

編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の表紙 知床峠からの朝日】

今月の表紙は、知床峠から撮影した朝日の美しい風景です。

峠は標高約738mで、羅臼岳や国後島方面まで見渡せる場所にあります。



今月の表紙